

## 第5章 まちづくりの方針

### 1. まちづくりの方針

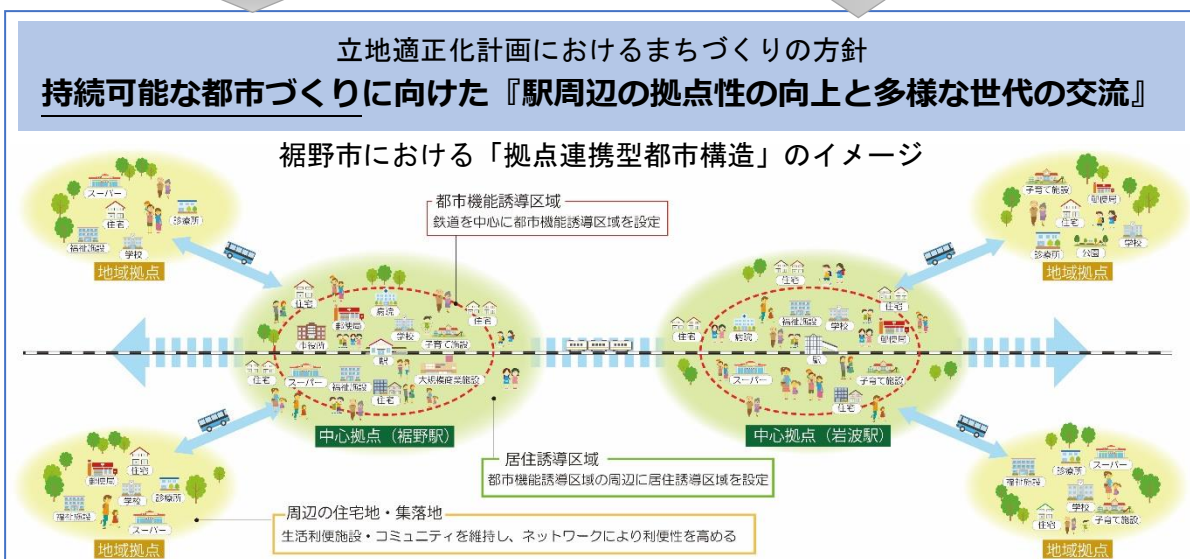
#### (1) 裾野市として目指すべきまちづくり

第5次裾野市総合計画で掲げている、まちの将来像「みんなが誇る豊かな田園未来都市すその」を受け、裾野市都市計画マスタープランでは、「みんなが誇る豊かな田園未来都市すそのの実現」を都市づくりのテーマとして掲げています。また、「多様な主体の参画による効率的で持続可能な都市経営の実現」を目標として、将来都市構造では、地域特性を活かした拠点を配置し、各拠点における都市機能の強化・充実（集約化）を図り、拠点間が有機的に連携した「拠点連携型都市構造」を目指しています。

本計画においては、「暮らし満足都市の実現」と「拠点連携型都市構造」への転換に向けて、裾野駅・岩波駅の2拠点と地域の住宅地・既存集落地の拠点化を推進し、公共サービスを含む生活サービスと都市基盤施設の質を維持するために、選択と集中により効率的で持続可能な都市経営の実現を目指します。

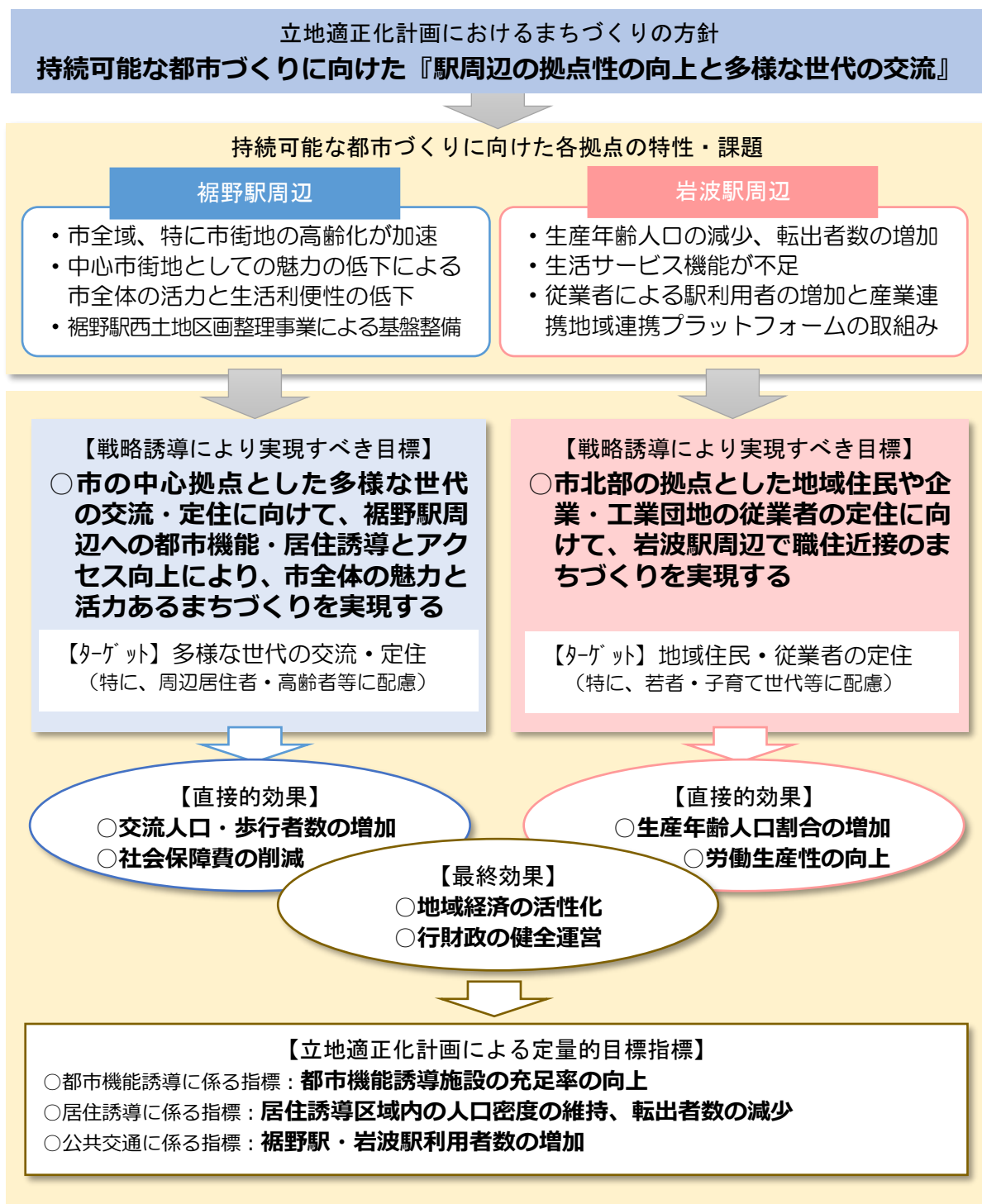
下図のとおり、裾野駅と岩波駅を中心に魅力と活力の向上を図り、多様な世代が交流することにより、誰もが生き活きと暮らすことができる都市を目指します。

| 上位計画の目標                       | 立地適正化計画の方向性                                                  |
|-------------------------------|--------------------------------------------------------------|
| 第5次裾野市総合計画<br>「まちの将来像」        | ◆高齢者だけではなく多様な世代が交流することで、市民が安心して元気に暮らすことができるまちを目指します。         |
| みんなが誇る<br>豊かな田園未来都市すその        | ◆人口密度が高いJR裾野駅周辺とJR岩波駅周辺の拠点性の向上を図るとともに、民間活力による賑わいの創出を目指します。   |
| 裾野市都市計画マスタープラン<br>「都市づくりのテーマ」 | ◆JR裾野駅・岩波駅を中心とした持続的な公共交通ネットワークの形成と利用者の維持を目指します。              |
| みんなが誇る豊かな<br>田園未来都市すその実現      | ◆持続的で健全な財政運営と行政サービスを維持し、市民が住みやすいまちを目指します。                    |
|                               | ◆市街地の活力と生活利便性を向上し、ネットワークを維持することで、郊外住宅と集落の定住とコミュニティの維持を目指します。 |



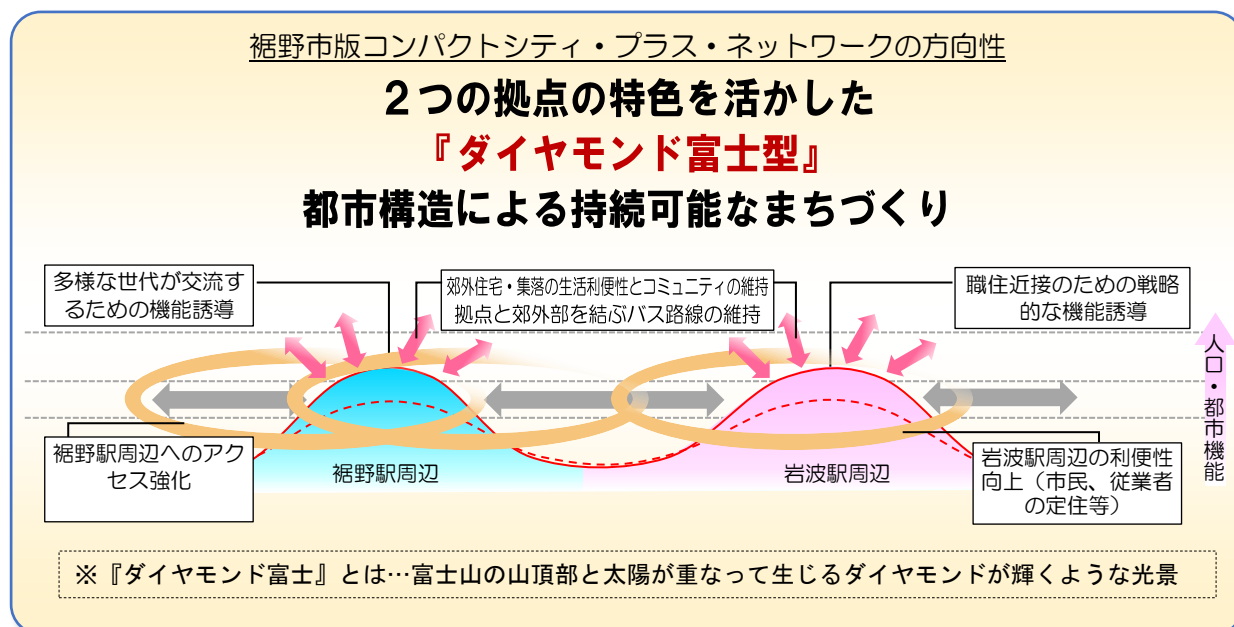
## (2) 達成すべきターゲットと目標

まちづくりの方針「持続可能な都市づくりに向けた『駅周辺の拠点性の向上と多様な世代の交流』」の達成に向けて、拠点となる裾野駅周辺、岩波駅周辺それぞれの課題から戦略誘導により実現すべき目標とターゲットを設定し、それらを実現することによる市全体で期待される効果を設定します。



## 2. 目指すべき将来都市構造

立地適正化計画におけるまちづくりの方針と実現すべき目標に向けて、裾野駅周辺と岩波駅周辺の2つの市街地形成を基本として、それぞれの特色を活かした拠点形成とネットワークの形成を構築します。



### 裾野市が目指す『ダイヤモンド富士型』コンパクトシティ

#### ◇富士山のように高く、拠点の魅力と利便性を向上する

本市の正面には富士山が位置し、富士山と一体となった水や緑などの自然環境、その環境を活かした観光資源・景観資源などが本市の大きな魅力となっています。裾野駅周辺と岩波駅周辺においては、交通結節点のポテンシャルを活かした機能誘導を行い、多様な世代が交流する拠点としてより魅力と生活利便性を高め、定住・交流につながる拠点形成を目指します。

#### ◇市街地・住宅地を循環する公共交通ネットワーク

裾野駅や岩波駅の周辺には、住宅や産業立地による市街地が広がっています。今後も高齢化が進行する中、それらの市街地や郊外住宅地・集落を結ぶ公共交通ネットワークを形成することで、将来もより利便性が高く住み続けることができる市街地形成を目指します。

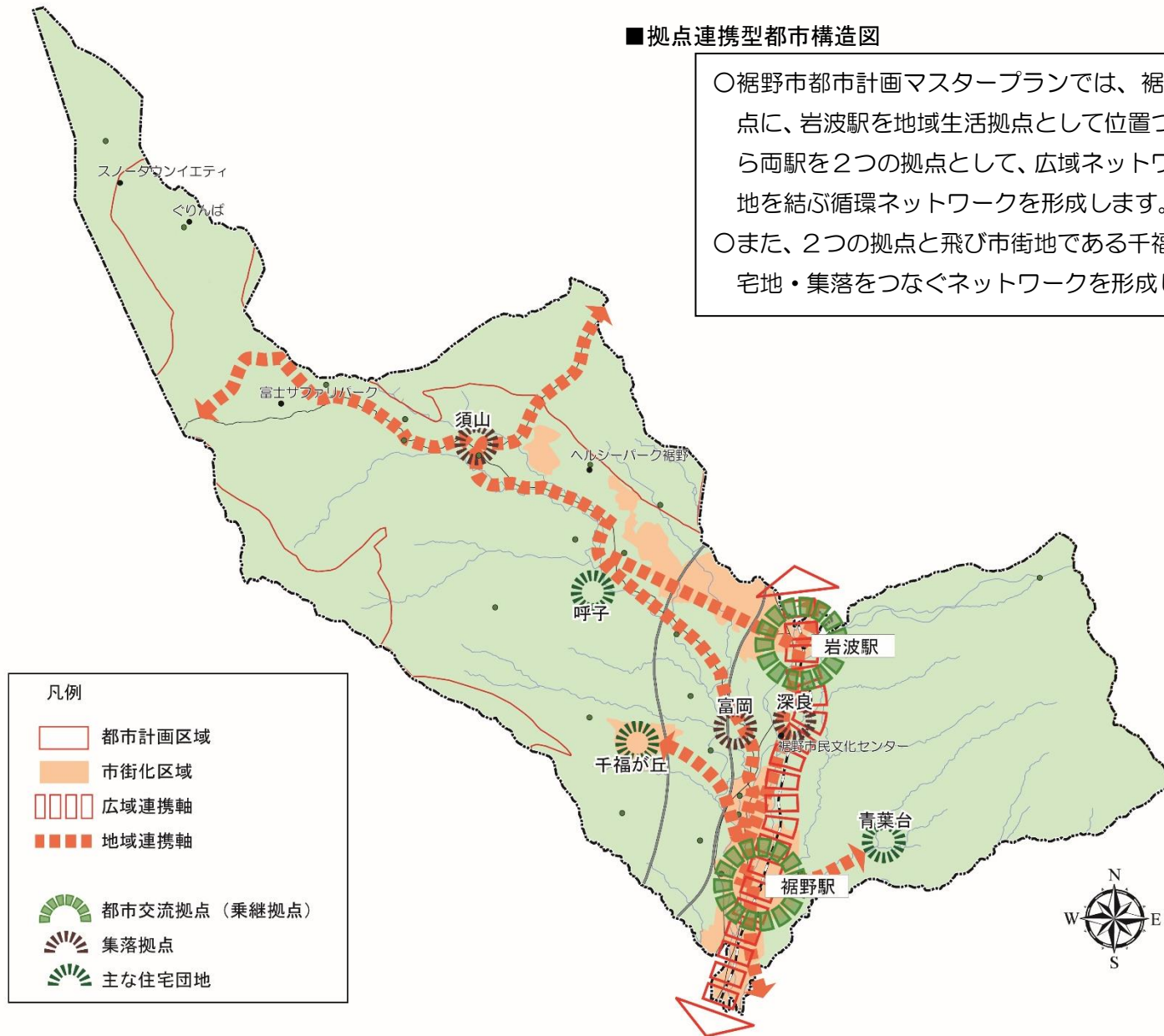
#### ◇郊外の住宅地や集落とつながることで、より拠点の光が輝く

本市は、市街化調整区域に全人口の約40%が居住しているという現状があります。このため、一概に市街地への居住を図るのではなく、市街化調整区域においてもコミュニティの維持といった観点から、継続して居住できる環境づくりが必要です。そのため、「拠点連携型都市構造」への転換によって、郊外の住宅地や集落においても、集約化を図りながら暮らしの満足度を高めることが重要です。裾野駅周辺や岩波駅周辺と郊外部の連携を強化し生活をつなぐことで、拠点性の向上と市全体の魅力の向上を目指します。

## ■拠点連携型都市構造図

○裾野市都市計画マスタープランでは、裾野駅を都市交流拠点に、岩波駅を地域生活拠点として位置づけています。これら両駅を2つの拠点として、広域ネットワーク、拠点と市街地を結ぶ循環ネットワークを形成します。

○また、2つの拠点と飛び市街地である千福が丘地区、郊外住宅地・集落をつなぐネットワークを形成します。



### 3. 都市機能誘導・居住・地域公共交通の構築に係る基本方針

#### (1) 都市機能誘導に係る基本方針

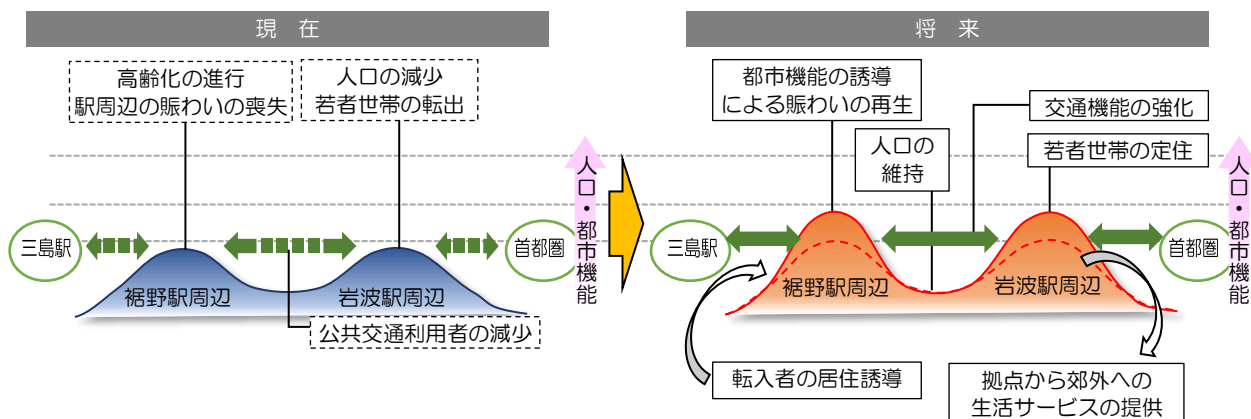
裾野市における集約都市の形成に向けて、3つの基本方針により都市機能の誘導を図ります。

##### ① 裾野駅周辺と岩波駅周辺の2つの拠点性を向上することで、市全体の魅力と利便性のレベルアップを目指す

本市は、都市計画マスタープランで都市における多様な機能が集約し、中心的役割を担う場所に拠点を設定しており、構想段階のものを除くと2つの拠点を設定しています。ひとつは、市の玄関口であり各種サービス機能が集積した中心市街地として、JR 裾野駅周辺を都市交流拠点としています。またもうひとつは、公共交通の利便性を備え、かつ日常的なサービス機能が集積した地域の生活交流の中心的な拠点として、JR 岩波駅周辺を地域生活拠点としています。これらの2つの拠点は、70万人／年以上が利用する駅を有していますが、駅周辺の人口は減少傾向にあることから、現状のまま人口が推移するとさらに人口減少が進むことが予想され、拠点としての魅力や賑わいが失われることが懸念されます。そのため、それぞれの拠点の公共施設を含む商業・医療・福祉などの既存の生活サービス施設を活かしながら、施設・機能の複合化や施設が集積している拠点周辺に居住を誘導することで、効果的に生活利便性と交通利便性を高めていくことが重要です。

裾野駅周辺と岩波駅周辺については、都市機能の誘導とともに、それぞれの地域特性に応じた転入・定住の促進を図ることで拠点性の向上を目指します。また、それぞれの拠点において集約すべき生活サービス施設の用途・規模を設定するとともに、周辺地域においては必要な生活サービス施設を維持し、拠点と周辺地域とのネットワークを強化することで、市全体の魅力と利便性のレベルアップを目指します。

#### ■ 都市機能誘導による効果



## ②地区の特性と2つの拠点の役割に応じた戦略的な都市機能の誘導を目指す

都市機能誘導にあたっては、既存の生活サービス施設の立地状況を踏まえ、単に施設を維持するだけではなく、各拠点のまちづくりの方向性（ストーリー）を明確にし、戦略的に都市機能誘導を図ることが重要です。

裾野駅周辺においては、市の玄関口にも関わらず人口減少・高齢化が顕著であり、中心市街地の衰退が課題となっています。そのため、土地区画整理事業等の推進による定住促進を図ります。また多様な都市機能を誘導することで、子どもから高齢者まで幅広い年齢層が中心市街地に集まり、誘導施設の利用が図られ、多様な世代が交流することによる賑わい創出へと結びつけます。また、高齢者等の地域住民が暮らしやすい環境づくりを行い、歩いて楽しい中心市街地の形成を目指します。

岩波駅周辺においては、静岡県ふじのくにのフロンティアを拓く取組みで指定された静岡県ふじのくにフロンティア推進区域（旧：静岡県内陸フロンティア推進区域）内で産業拠点が広がっているため、岩波駅は朝夕、企業に勤める多くの従業員に利用されています。近年は人口が減少傾向にありますが、若者・子育て世代に配慮し子育てしやすいまちづくりを推進しながら、産業と連携した若者世代やファミリー層の定住を目指します。

### ※ふじのくにのフロンティアを拓く取組

- ・防災・減災と地域成長を両立させた魅力ある地域づくりを実現するため、静岡県では「静岡県ふじのくにフロンティア推進区域（旧：静岡県内陸フロンティア推進区域）」を設置し、県全域への拡大に向け市町との取組や事業の具体化を強化・支援している

## ③段階的な都市機能の誘導を図り、長期的な視点で拠点連携型集約都市の形成を目指す

本市では、裾野駅周辺と岩波駅周辺以外にも、「裾野市都市計画マスタープラン」において、裾野 IC 周辺を職住近接型住宅地検討エリアに位置づけているとともに、深良新駅（構想）周辺においては地域生活拠点として新市街地検討エリアに位置づけています。また、近年は長泉町に近接する伊豆島田地区などの市南部では、長泉なめり駅による交通利便性やその周辺への生活利便施設の立地による生活利便性の向上がみられ、今後も人口増加が見込まれます。これらの地域においては、計画の進捗や社会情勢・市民ニーズの変化等より、段階的に都市機能誘導を図る検討が必要です。

裾野駅周辺と岩波駅周辺において都市機能誘導を図りつつも、時間軸をもって地域の実情に応じた都市機能誘導を図るとともに、周辺の住宅地や集落との連携を強化することで、長期的な視点による拠点連携型の集約都市の形成を目指します。

## (2) 居住に係る基本方針

裾野市における集約都市の形成に向けて、5つの基本方針により居住誘導を図ります。

### ①裾野駅周辺と岩波駅周辺の2つの拠点の周辺に居住誘導を図り、将来も市街地における一定の人口密度を維持することを目指す

本市の DID 人口密度は、2010 年で 50.9 人/ha と高密度な市街地が形成されています。しかしながら、2020 年には DID 面積は横ばいに推移しているにも関わらず、DID 人口密度が 49.5 人/ha にまで減少しています。人口減少の中にあっても一定のエリアにおいて人口密度を維持することにより、生活サービスやコミュニティが持続的に確保されるよう居住を誘導していく必要があります。

将来推計では裾野駅周辺や岩波駅周辺で人口減少が予想される中、拠点の周辺に居住誘導を図ることで、将来に渡り一定の人口密度の維持を目指します。

### ②生活利便施設や鉄道駅・バス停周辺に居住を誘導することで、高齢者等が健康で歩いて暮らすことができる市街地形成を目指す

本市では、市全域で高齢化が加速的に進んでいます。中でも東地区・西地区の市街化区域、千福が丘地区でその傾向が顕著になることが推測されます。将来は、自家用車での移動が困難になることも考えられ、日常生活に必要な生活サービスの維持、もしくはそれらの施設周辺への居住誘導を図ることが必要です。

公共交通ネットワークと連携しながら長期的な視点で生活利便施設や鉄道駅・バス停周辺に居住を誘導し、高齢者等が健康で歩いて暮らすことができる市街地形成を目指します。

### ③防災・減災対策と連携しながら安全な居住地形成を目指す

本市では、市街化区域の一部と市街化調整区域に土砂災害特別警戒区域が点在しています。また、市の中央部を流れる黄瀬川周辺の市街化区域の一部が浸水想定区域に指定されています。地震だけではなく、豪雨による河川の氾濫や土砂崩れなど、多種多様な自然災害が想定される今日、市民が安全で安心して暮らすことが重要です。

安全な地域への居住誘導、もしくは防災・減災対策と連携しながら既存の市街地・住宅地の安全性を確保するなどにより、安全な居住地形成を目指します。

#### ④郊外住宅地は拠点との連携により生活利便性の維持を目指す

本市では、飛び市街地である千福が丘地区、郊外住宅地で一定規模の人口集積が見られます。これらの鉄道駅周辺以外の地域においても、今後は人口減少や高齢化が進行し、空き家の増加、住宅地の荒廃などが懸念されます。

これらの地域には、路線バス等が通っていますが、運行本数は少なく公共交通による移動利便性が低い地域であるため、移動手段としては自家用車が中心となっています。加えて、今後は運転免許を返納する高齢者の増加も想定されることから、公共交通の利用促進と維持を図り、拠点である裾野駅、岩波駅との連携により生活利便性の維持を目指します。

#### ⑤集落地は、既存の農地・緑地は保全しながらゆとりある居住環境を形成し、各地区や集落のコミュニティの維持を目指す

本市では、市街化調整区域に全人口の約 4 割が居住しています。深良地区、富岡地区、須山地区の集落や住宅地においても人口が分布しており、良好な居住環境を形成しています。また、深良及び石脇の一部には、市民文化センターや福祉保健会館等の公共施設が集積している地域があります。そのため、主として拠点周辺や市街地への居住誘導を図りつつも、郊外住宅や集落の居住者も持続的に定住できるよう、生活に必要な機能を維持することが必要です。

各地区や集落のコミュニティを維持しつつ、既存の農地・緑地を保全しながらゆとりある居住環境を形成することを目指すとともに、公共施設が集積している地域については土地利用のあり方を検討します。

### (3) 地域公共交通の構築に係る基本方針

裾野市における公共交通は3つの基本方針により持続可能な公共交通の再構築を目指します。

#### ① 広域アクセスに配慮しつつ、公共交通機関の機能分担と拠点機能の強化によるネットワークの再構築を目指す

裾野市は、裾野駅周辺に大規模商業施設や市役所など各種サービス機能が集積するなど、地区によって土地利用や人口集積などの地域特性が異なっている中で、各公共交通システムの担うべき役割を明確にし、有機的かつ効率的に機能するネットワークを形成することが重要です。

岩波駅西側周辺に大企業工場や研究所が多く立地しており、周辺市町や県外への結び付きが強いいため、広域アクセスに配慮しつつ、鉄道（JR 御殿場線）、高速バス、民間路線バス、タクシーなど様々な公共交通システムの機能を発揮できるよう、乗継拠点の設置により、地域ニーズと効率性が両立した公共交通ネットワークの形成を目指します。

#### ② 観光振興や商業活性化などまちづくりと一体となった公共交通サービスの展開を目指す

裾野市の地域公共交通は、今後人口減少や少子高齢化の進展等により、ネットワークの縮小やサービス水準の一層の低下などが懸念される中で、まちづくりと連携した公共交通サービスの展開が必要となっています。

継続して地域公共交通の維持・充実を図るためには、行政支援等により公共交通のサービス水準を高めると同時に、観光振興や中心市街地活性化及び総合戦略事業等との連携・一体化を図った取組、乗継拠点・乗継ポイントの整備、公共交通マップ等による情報提供の充実、さらには意識啓発・PR といった施策を展開し、既存のストック（公共交通システム）を最大限に活用しながら利便性・快適性の向上を目指します。

#### ③ 「地域が支え、育てる」持続可能な公共交通の確立を目指す

持続可能で利便性の高い公共交通の維持・確保を図るためには、交通事業者の自助努力や行政の支援だけでなく、地域自らが公共交通を「支え、守り、育てる」という意識を持って関わっていくことが重要です。

市民・来訪者の移動手段を確保する公共交通システムを、魅力ある、使いやすいものとしていくため、観光協会、商工団体、福祉団体、市民など多様な主体との協働・連携を図りながら、持続可能な公共交通の確立を目指します。